

■ 今月のメッセージ(2010年8月)

日本銀行富山事務所長
水上 誠一

日本を再生するためのキーワードは何か。その一つは「遊び心」ではないでしょうか。こう言うと、「何と不謹慎な」ということになりそうですが、明治時代以降の「まじめ一徹」の精神で築き上げてきたモノ作り大国日本も、厳しい岐路に立たされています。新興国の技術が格段に向上し、中級品までは日本製に比べて遜色がなくなり、日本製部品にこだわっていた当地の工作機械メーカーでさえ、コスト減の圧力に耐え切れず、輸入比率を大幅に引き上げています。

こうした中で、理屈的には、中級品までの生産拠点は海外に移し、研究開発部門と高機能工場を国内に維持したうえ、高級品の開発に専念するということにはなりますが、そう簡単なことではないようです。まず、研究開発部門を国内に維持したくとも、理科系離れもあって、優秀な若手研究者の確保が厳しく、博士号取得者が急増している中国人の希望者が殺到する状況です。

— 中国の科学工学系博士号取得者数は、1999年に日本を抜き去り、現在米国に次いで第2位であり、米国の年間約3万人に対して、中国はその半分の1.5万人程度、日本は更にその半分の8千人程度となっています。

また、高級品の開発についても、「ガラパゴス化」と揶揄されるような日本独自規格の発達で行き詰まる中で、折角の高度技術が世界戦略に生かされておらず、開発スピードを落とさずに、如何に発売段階からグローバル化仕様で出していけるか、が深刻な課題となっています。

最近大きく話題になったものに、某社のスマートフォンがありますが、色々な意味で示唆的です。購入した人は、まず小さい外箱に驚き、「あれ？トリセツ(=取扱説明書)がない！」とまた驚き、半日文字通り遊んでいると、ほぼ基本の使い方をマスターしているのに更に驚くのです。また、重要なことは統一された操作性で、基本的な機能しか必要のない人も、パソコン代わりに高度に活用したい人も、各機能の連携が標準化されているために、ともに買ったその日から満足する点です。

このように、①遊び心にあふれた技術(例:アイコンを移動させるときに、アイコンがプルプル震える)と、②使う人のレベルに合った機能を簡単に活用できる、点がヒットしている理由だと思えます。また、世界戦略的には、③発売時からグローバル仕様(34ヶ国語に対応)であることも見逃せません(例:アラビア人が日本で買っても、右から左へ書くアラビア語を表示可能)。

ところで、日本において「まじめ一徹」が美德だったのは、明治時代以降のわずか140年弱ではないでしょうか。現在日本文化と言われているのは、奈良時代から江戸時代まで究極まで鍛え上げた「遊び心」(能、歌舞伎、茶道、華道etc.)そのものであり、実は、江戸時代の否定＝「遊び心」への封印、により、「まじめ一徹」の精神で高度技術を蓄積してこられたのだと思えます。このように考えると、日本は今世界で最も有利な立場にあると言えないでしょうか。元々旺盛な江戸時代の「遊び心」を持って、明治以来築いた「世界最高の技術」を、世界の人々に使ってもらえる立場にいるのですから。

ガラパゴス化も批判が多いですが、その閉鎖的市場の中で「遊び心」が開花したという面もあり、その一つの産物が「絵文字」(emoji)で、これが今ジャパंकール(日本のカッコいいモノ)なのです。因みに、ネットで“emoji iPhone”と検索すると、何と174万件ヒットします。販売戦略でもあるのですが、米国企業が絵文字の国際規格化を進めています(日本企業が絡んでないのが残念)。

「遊び心」を持って、「日本品質」のモノやサービスをグローバルに売り出す戦略、これが日本の生きる道の一つだと思います。勿論、「遊び心」＝「怠け心」ではありません。高度な技術水準の維持には勉強が不可欠(日本人の勉強嫌いは深刻!)。お間違えのないように。